

網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.91
2020.7

なかなか美味ですな～

梅雨に会いましょう

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

小さな殻をかじっている？「ウスカワマイマイ」

今年も初夏の訪れを告げるヒメボタルが発生し始めた7月中旬のある日、しとしと降る雨の中でウスカワマイマイに出会いました。夜行性のためか木製の柱にくっついて眠っているものが多い中で、小さな殻を丸呑みしているようなカタツムリを発見。のんびりと穏やかなイメージとはかけ離れた姿に鼓動が少し早まりました。ですが、カタツムリはおちょぼ口。歯舌（しせつ）と呼ばれるやすり状になった歯のようなものが無数に並び、けずり取りながら食べるはず。どうやら丸呑みではなさそうです。食べるものは落ち葉や花びら、コケ、キノコなど主に植物性のものを好みますが、体と共に内臓などが入っている殻の成長に不可欠なカルシウムを摂るためコンクリートなども食べています。たまたま近くにいたカタツムリの殻からカルシウムを補給しようとしていたのでしょうか？動向が気になり撮影し続けていると「うるさいなあ」と言わんばかりに小さな殻から離れてしまいました。耳を持たない静かな世界に棲むカタツムリは、大きな触角の先にある目でこちらの気配を感じ取ったのですね。邪魔してすみませんでした…。

What is
"Usukawamaimai"?

『球形の殻のカタツムリ』

オナジマイマイ科
殻径：約 23mm
殻高：約 21mm
分布：北海道～九州

殻が薄く半透明。成熟しても殻口が反らない。人家周辺や畑など開けた場所で見られる。大触角の先端に目があるが光の明暗を感じる程度。その下にある小触角は匂いや味を感じたりできる。

(参考図書：「カタツムリの謎」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

倒木を読む

第2話

菌系がつくる土中のネットワーク



前回紹介したミズナラの倒木の根は垂直方向にはあまり深く根を下ろしていない。地面に固い岩盤でも埋まっているのかと思ったが、どうもそうではないようだ。ミズナラが元いたほっかり開いた穴に目をやると、粘土質の土が露出して少し水もたまっていた。表向きは緑豊かな森でも、火山活動等で形成されたやせた堆積層は意外と浅いようだ。樹木が健やかに育つには、水と空気がうまく循環する多孔質な「団粒構造」の土壌が望ましい。こうした土壌では様々な菌類・バクテリア・ウイルス・藻類・小動物が共存し樹木を含めた好循環を生み出している。特に菌類やバクテリアは集合体として菌系で網目を縫うように広がり、土中のすきまの保持や養分・水・情報の伝達といった森の生命維持に欠かせない働きを担うそうだ。樹木も「菌根菌」を通してこのネットワークにつながり、生きるのに必要なやり取りをし、枯れる際も「木材腐朽菌」が使える養分を他の生き物へ還元する。森の高度な循環には改めて驚かされる。

『おい けとばすな』
 おい けとばすな
 けとばすな
 けとばすな
 なあんた たうとう
 すつきりとしたコチニールレッド
 ぎっしり白い菌系の網
 こんな色彩の鮮明なものは
 この森ちゆうにあとはない
 あゝムスカリン
 おーい！
 りんと引っぱればれ！
 りんと引っぱればれ！
 山の上には雲のラムネ
 つめたい雲のラムネが湧く

宮沢 賢治



こんな状態でも春に芽吹き葉をつけた不屈のミズナラ

森の雑記帳

Q.菌類とバクテリア（細菌）の違いを教えてください。

A. よく知られた菌類、キノコは「担子菌類」という種類で、土中の菌系が本体だ（キノコは胞子を散布するための器官）。キノコの一部は「子のう菌類」に分けられ、酵母・カビ・地衣類・冬虫夏草もこの仲間。対してバクテリアは菌類よりも小さく原核生物に分けられる。菌類（真核生物）と違ってDNAが核膜に包まれていないのが特徴。生物圏のあらゆる環境に広がり、人にとっても腸内細菌や発酵食品、結核やコレラなど良くも悪くも関りが深い。菌類と細菌は名前が似ているが全く別の生きものだ。



アミハリ・バード Vol. 34

フクロウ

科名：フクロウ科
 全長：48～52cm
 生態：留鳥
 分布：九州以北



網張からの帰り道、小岩井農場の近くで道路を横切る2羽のフクロウを目撃しました。羽音をほとんどたてない独特な浮遊感、他の鳥と一線を画すものがあります。数年前、フクロウの営巣プロジェクトを手掛ける栃木県のNPO法人の方からコンタクトを受けた事があります。全国的に樹洞を伴う大きな木が少なくなり、フクロウの生息地も減少しているの、巣箱を森に設置しませんか？というご案内でした。もしも、森のアカネズミやヒメネズミが聞いていたら震え上がったでしょうね。結局、国立公園内の設置は難しく、関係者の仲介で盛岡農業高校の圃場に設置される運びとなり、生徒からも歓迎されたそうです。青森県のリンゴ園でもフクロウの営巣を手伝い、ハタネズミの害を減らす試みが進められていると聞きます。森の賢者が安心して暮らせるフィールドが、少しずつでも増える事を願うばかりです。

網張 岩手山

私のとおきのおきの1枚



最近普及してきたドローンを活用して、行方不明になった山岳遭難者を空からいち早く発見し救助につなげようと、ウチの救助隊でもドローンを購入しました。

しかし、隊員の中で満足に操縦できる者が居なく、高価なものなので、遠慮して誰も操縦しない状態…。なので練習機としてトイドローン(航空法に触れない小型のドローン)を自腹で購入したのでした。

この写真は令和2年6月中旬に御神坂から登って、網張に降りる途中の鬼ヶ城で操縦の練習がてら空撮したモノです。鬼ヶ城はアルペ的な岩稜が魅力の尾根ですが、空から見るとまた新鮮です。

ドローンで捜索する技術はまだありませんが、ドローンによる空からの捜索は山岳地帯では大きな可能性を秘めており、遭難者の早期発見につなげ、人命救助に一刻も早く活躍できるようにしたいです。

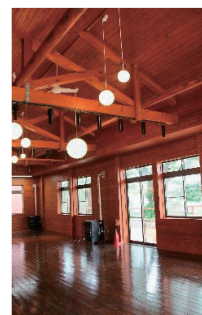
南岩手山岳遭難対策委員会 零石救助隊 副隊長 滝澤 稔 氏

環境省 盛岡管理官事務所からのお知らせ

◆◆◆ ビジターセンター改修工事進捗レポート ◆◆◆

細い廊下で2棟の建物をつないだ形をしている網張ビジターセンター。実は、網張温泉館側の建物は、昔、キャンプ場の管理棟だったことを、ご存じですか？

その管理棟の工事が無事完了し、新しく生まれ変わりました！…と言いたいところですが、まだ中身の展示ができていません(泣) 新しい展示を鋭意作成中ですが、まだ何も置いていない管理棟を見ることができるのは、今だけ！珍しい機会なので、ぜひ、お立ち寄りください。



(新しくなった管理棟)

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点を置きながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

-国立公園で楽しむ親子の自然体験-
5月31日「登山ガイドと犬倉山に登ろう」



「登りは辛かったけど、下りはあっという間だった」
-参加者より

今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、時間とコースを変更し、ビジターセンターから兎平までの登山を行いました。「ケムシ見つけ!」「オトシブミ!」など賑やかにスタート。山での歩き方、クマに出会ったらどうする?など楽しく学びました。

小学生3名を含む総勢 14名参加

-市民火山教室- 7月5日
「大松倉山に見る岩手山の火山活動」



「山歩きの視点が変わってくる」、「これから地層に目を向けて歩きたい」-参加者より

第20回目を迎えた今回も、岩手大学の土井先生を講師に迎え、今日私たちが見ている地形がどのように形成されてきたのかを、実際に火山灰の層を見て・触れて・話を聞いて学びました。あいにくの雨模様のため、コースを短縮して行いましたが充実した内容の火山教室となりました。総勢 18名参加

写真提供：岩手山地区パークボランティア

8月1日(土) -国立公園で楽しむ親子の自然体験-
「よるの森をのぞいてみよう!コウモリ調査隊と昆虫ライトトラップ」



19:00~20:50 網張ビジターセンター集合
定員：親子5組 10名 ※定員に達したため募集締切
参加料：大人500円 中学生以下300円

8月9日(日) -国立公園で楽しむ親子の自然体験-



「虫となかよく夏休み!」
だて先生の昆虫観察・クラフト体験

9:30~15:00 網張ビジターセンター集合
定員：親子5組 10名 ※定員に達したため募集締切
参加料：大人500円 中学生以下300円

9月6日(日) -国立公園で楽しむ親子の自然体験-



「おかわりしたくなる!炭火炊飯体験」
10:00~14:00 網張ビジターセンター集合
定員：親子5組 10名 ※定員に達したため募集締切
参加料：大人500円 中学生以下300円

9月26日(土) -国立公園で楽しむ親子の自然体験-



「森で楽しむ♪花あそび・草あそび」
10:00~12:00 網張ビジターセンター集合
定員：親子5組 10名
参加料：大人500円 中学生以下300円

☆詳しくはビジターセンターまでお問い合わせ下さい。
☆新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になる場合もございます。最新の開催情報を事前にご確認下さい。

7月11日~16日
夏の網張の森ヒメボタル観察会



館内で「ヒメボタルの一生」の紙芝居を読んでから、森に出かけました。ふわっと光が見えると歓声が

あがりました。今年は気温が低く雨の日もありましたが毎回儚くも力強いヒメボタルの光の舞を観察することができました。5日間で総勢46名の参加



-国立公園で楽しむ親子の自然体験-
7月18日「ナイトハイクと星空観察★」



「星が見られなかったのは残念でしたが、ヒメボタルが見られて良かったです」、「1人だと森に入るのは怖いけど、みんなと一緒に歩きました」、「星の話が楽しかった」-参加者より

講師より星座や惑星の見つけ方や国際宇宙ステーションについて映像を交えてお話を聞きました。その後はライトを片手に真っ暗な森のナイトハイク!「木の根っこがあるよ」、「階段に注意」などみんなで声を掛け合って歩きました。今回は残念な空模様となりましたが、ナイトハイク&ヒメボタル観察を楽しみました。総勢 19名参加

モモンガのつぶやき

6月の終わり、休暇村のスタッフがミズナラの葉が巧みに巻かれたオトシブミの揺籃を届けてくれました。葉柄を湿らせたティッシュで包み様子を見ること約2週間。観察器の中に立派なゴマダラオトシブミの姿が!葉っぱはスカスカになり、辺りには黒い小さなフンがたくさん落ちていました。

たった1枚の葉が家になり、食べ物になり…。究極に無駄のないライフスタイルだなあ。(桂)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 661人 ◆ 6月 1,226人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 8.5℃ ◆ 6月 13.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2(網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時